

# 保存会だより

2007.3.27  
黒森歌舞  
伎保存会

○事務局○  
酒田市文化課  
Tel.0234-26-5777

## 来年の演目は 「近江源氏先陣館」に決定

三月十一日、来年の演目を決める行事「太夫振舞」が黒森地区の日枝神社で行われ、「近江源氏先陣館（おみげんじせんじんやかた）」に決まりました。平成六年以来、十四年振りの上演になります。

今年の選者となったのは、役者の佐藤 烈矢さん（十八歳）。時折粉

雪が舞う寒い中、神社境内の井戸で七杯半の水をかぶって身を清めてから、神社内で「神饌（しんせん）の儀」といわれる、演目候補を書いた三つのこよりから一つを引き上げる儀式を行い、来年の演目が決まりました。

今回の「近江源氏先陣館」は、兄

弟が敵味方に別れて争う戦の悲劇の内容で、一幕で二時間半もかかる長い演目です。来年の公演では、座員たちがどのような舞台を見せてくれるか、大変楽しみです。この「太夫振舞」の行事

から、黒森歌舞伎の一年がスタートします。

## 正月公演・ 酒田公演開催

今年の黒森歌舞伎正月公演（二月十五日・十七日）と酒田公演（三月四日）が、盛大に開催されました。

十五日は、開催が危ぶまれる程の大荒れの天気の中、無事に最後まで公演できました。大勢集まったカメラマンたちは、時折雪が舞うと、盛んにシャッターを切っていました。

一転して好天に恵まれた十七日は、土曜日ということもあり、場所取りに苦労するほど大勢の観客で賑わいました。

恒例となった黒森小学校児童による少年太鼓・少年歌舞伎も上演され、舞台の元気な子どもたちへ会場から大きな拍手が送られました。なお、今回で十年目を迎えた少年歌舞伎ですが、卒業生の内から四人が座に入り、四人とも今回の本狂言の舞台に立ちました。

今年から新たに始めた企画も大好評で、「黒森歌舞伎幕の内弁当」



は、両日とも完売。「会場案内係」の大学生スタッフたちも、一生懸命に働き、観客に喜ばれました。

「希望ホール」で開催した酒田公演にも大勢の観客が集まりました。

お客さんの反応もよく、役者も気持ちよく演じることができました。

佐藤進一座長は、「今年の公演では皆様のご支援をいただきありがとうございます。大学生の案内係、歌舞伎弁当なども大好評でした。来年も多くのお客さんに喜んでもらえるように頑張ります」と語ってくれました。



選者は、神饌の儀の前に、井戸の水で身を清めました。

保存会会員の松本鶴子さんから特別寄稿をいただきましたので紹介します。松本さんは、黒森歌舞伎に魅せられ十八年にも渡ってカメラ片手に黒森へ通い続け、写真集「黒森歌舞伎の記録」を出版しました。昨年には、黒森歌舞伎をテーマにした写真作品が「酒田市土門拳文化賞奨励賞」を受賞しています。

黒森歌舞伎と出会って

松本 鶴子

二十年ほど前、九死に一生の事故を起こして入院していた時に友人からウインダム・ヒルの写真集と一本のテープを頂きました。それは音楽を聴きながら写真を見るというものでした。そのあまりの美しさに感動して、事故で病んでいた私の心は癒されました。その時「あんな写真を撮ってみたい」と思ったのが写真を撮るきっかけです。

黒森歌舞伎は、写真の仲間から連れてこられたのが最初です。二月の寒い中、防寒具に身を包み酒を飲み料理をつつきあいながら雪の降りしきる中、じっと舞台を楽しんでいる見物客にビックリしました。一生懸命に芝居を演じる役者達、一年中で一番厳しくて寒い時期、しかも二百七十年以上も続いているそうです。

「その魅力は一体何だろう」と考え、それ以来私は黒森歌舞伎のトリコになりました。始めは観客席から撮らせてもらっていましたが、長く通っている内に地元の方や役者さん達とも顔見知りになり、楽屋にもお



—写真集「黒森歌舞伎の記録」より—

邪魔するようになりました。役者さんの素顔が見えたりして撮る楽しみが増えました。そしてだんだん奥深く歌舞伎を知りたいと思ひ、いろんな行事に足を運ぶようになりました。

「太夫振舞」「春祭り」「お面開き」「虫干し」「おさらい」「正月公演」など。撮影中、歌舞伎弁当を作っている裏方の女衆から「おめさんも食べでいげ」と言われた時のふくどり餅は懐かしくて美味しかったこと。台本に熱中する人、イメージを作る役者さんに恐る恐るカメラを向けた時、化粧、着付けと楽屋裏は熱気でムンムンしていてレンズが曇るときもしばしばありま

した。

「今年も来たのー」と声をかけられると嬉しくてついシャッターを押してしまいます。とにかく楽屋でウロウロしているのですからどんなにご迷惑をかけたか分かりません。吹雪の寒い日も雨混じりで強風の日も呉汁や甘酒で体を温めいつも楽しかったです。農村歌舞伎を傳承する地域の人々の熱い思いが伝わって来ます。そして黒森歌舞伎と出会えた事は私の人生の中でもこんな幸せなことはありません。心より感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございます。

寄せ太鼓に誘われて雪虫が舞い降りるころ私のからだの血がさわぐ。



—写真集「黒森歌舞伎の記録」より—